お店は「小さな地球」、職場は「小さな社会」

—株式会社中原商店—

職場ルポ

WORKSHOP REPORT

（文）清原れい子　（写真）小山博孝

株式会社中原商店（ぴょんぴょん舎）

〒020－0142　岩手県盛岡市稲荷町12－5

TEL 019－647－0474　FAX 019－643－6772

宮城県：ふれあいワークフェア（障害者就職面接会）　9月18日（水）　仙台サンプラザ（仙台市）
　　障害者合同面接会　9月下旬　場所未定（石巻市）
秋田県：きらめきワークフェア（障害者就職面接会）　9月27日（金）14：00～16：00　秋田ビューホテル秋田駅前（秋田市）
山形県：障害者就職相談会　9月19日（木）13：30～　ベルホール新庄玉姫殿（新庄市）

「遊」をコンセプトに店づくり

わんこそば、南部煎餅などの盛岡名物に、近年「盛岡冷麺」が加わった。盛岡冷麺のルーツは、朝鮮半島の北部、牛スープで辛みなしの平壌（ピョンヤン）冷麺と、スープなしで辛みありの咸興（ハムフン）冷麺がミックスされてできたものだそうだ。

盛岡駅から車で数分。国道四六号線沿いに、ロフト風のしゃれた建物が見えてくる。そこが、株式会社中原商店の「ぴょんぴょん舎」本店だ。高い天井、木をふんだんに使った店内に静かにBGMが流れ、絵画、民芸調のアンティーク家具や瓶などがほどよく調和し、生花が彩りを添える。心地よい空間。ちょうど昼食時で、順番待ちをして盛岡冷麺をいただく。コクがあるのに、あっさりしたスープ。キムチの辛さ、小麦粉とデンプンのコシの強い麺。食が進む。

さわやかな風に木々のみどりが揺れる。小鳥のさえずり……。ここでも食事ができるというオープンデッキで、株式会社中原商店社長の邉龍雄（ピョンヨンウン）さんと、統括本部副本部長の昆野勝士さんにお話をうかがった。まず、邉さんのお話から。

「子どもたちや女性たちに遊んでほしい。遊び感覚を大事にしたいと、お店のコンセプト、ネーミングは、『遊』からとりました。私の姓がピョンだから、ぴょんぴょん舎ですかと聞かれるのですが、ぴょんぴょんと重ねると遊びのイメージがする、子どもに広がる名前だと言われて決めました。結果的に、私の名字を使ったことになりましたが」

邉龍雄社長

モダンな外観・内装と、焼肉・冷麺のお店。ちょっと意表を突かれた感がある。

「オープンした十五年前、ロフト風、スタジオ風の建物がはやっていました。蔵や倉庫をイメージして、古いものだけでなく、新しい感覚も取り入れました。韓国の食文化を提供すると同時に、情報提供の場、集いの場、人との出会いの場でありたいと思いました」

邉さんは神戸で生まれた。邉さんの父は韓国・済州島の出身で、一九二六年に日本に来て小さな工場を経営していたが、事業に失敗、一家は岩手県二戸市に。父はアメやお菓子づくりをした後、盛岡で資源回収業を営んだ。邉さんは、高校を卒業して家業を手伝った後、経理専門学校や短大で学び、税理士をめざしたが、父が病に倒れ、家業を継ぐことになった。折しも業界は、円高による構造不況業種に指定されていた。新たに何か商売をしなければならない。自分に何ができるだろうか。

昆野勝士総括本部副本部長

「初めから盛岡冷麺に力を入れたわけではなく、自分ができるのは焼肉と冷麺だけだったんです。外食産業は好きではなかったのですが、空間をデザインしたりするのは好きでした。レストランなら、デザインの世界が生かせるのではないかと思ったのです」

「円高事業転換制度」適用の岩手県第一号となって、八七年、同じ場所に本店をオープンし、猛勉強の日々が始まった。店は、将来デザイナーか建築家にと思ったこともあったという邉さんのセンスが光り、全国的な商環境デザイン賞も受けた。

知的障害者施設との出会いが原点

邉さんが中学生のころ、家の近くに知

山形県：ふれあい合同面接会　9月25日（水）13：00～　ホテルメトロポリタン山形（山形市）
障害者合同面接会　9月26日（木）13：00～　グランドホクヨウ米沢（米沢市）
さかた障害者就職面接会　9月27日（金）13：30～　いろり火の里「なの花ホール」（東田川郡三川町）
茨城県：県央ブロック障害者就職面接会（水戸会場）　9月24日（火）13：30～15：30　ホテルレイクビュー水戸（水戸市）

的障害者更生施設「緑生園」をつくる計画ができた。地元の中学校を中心にボランティア活動が始まり、市民たちは雫石川から玉石をリレーして建設を応援。邉少年もその中の一人だった。

緑生園と地域の人たちは、さまざまなイベントや行事でかかわりあった。邉さんは、緑生園創設者、中野芳幸さんの「いかなる人も人として認められる社会」という理念に引きつけられた。

「中野先生はりっぱな方でした。接するうちに、知的障害者への違和感がだんだんなくなったんです。小学校のころ、在日韓国・朝鮮人ということで区別、差別を受けた側だったので、区別や差別の問題には敏感でした。いつか、自分が事業を起こすことがあったら、この子たちを絶対雇いたいと思っていました」

ぴょんぴょん舎の盛岡冷麺

「社内には反対する者もいましたが、緑生園では、あいさつとか後かたづけなど、社会人としての基本的なルールはきちんとできるように指導していましたから、働いてもらっても大丈夫だと確信していたんです。社員には、一人ひとりの人格を尊重して仲間として接してほしい。健常者が長続きしない鉄板洗浄の仕事をするので、感謝の気持ちで接してほしい。仕事をやって見せて、きちんと教えれば必ずできると信じて一年間面倒をみてほしいと頼みました。この子たちは絶対できるようになると信じることからスタートしました」

最初は二人、すぐにもう一人を雇用して、鉄板洗いや食器洗いを教えた。その作業ができるようになってから、午後の暇になる時間を利用して、肉の味付けを教えた。

「ほかの仕事もできたら、助かるし、励みにもなると思って、そのうちの一人に肉の味付けを教えました。分量を決めて、ゆっくりでいいからやってみなさいと。そうしたら、スピードはないけれど、できるようになったんです。先生方からは、『仕事は同じことを繰り返してやらせてください』『お互いに競争はしません』と言われていたんですが、彼らが競うようになってきたんです」

肉の味付けの次に、機械からの冷麺の落とし方を教えたら、それもできるようになった。冷麺のゆで時間の正確さだけを競えば、健常者に負けないようにもなった。厨房の下ごしらえもできるようになった。

「最初はかみ合わなくて、ギクシャクしていましたが、一つひとつクリアしていくのを見ていると、障害者であることを忘れてしまうくらい、レベルがあがってきました。考える力とか、スピードでは差がありますが、そこは健常者がちょっとフォローすればいいわけです」

給与のほか賞与も払っている。時間外労働は二〇時間まで。

「一定時間にこなせる量は健常者の半分とか三分の一とかですが、時間がかかっても健常者が続かない仕事をやってくれていますから、当然最低賃金はクリアしています」

職業生活相談員がふえたら問題が少なくなってきた

感動するドラマはたくさんあった。頭を抱えた問題もいろいろあった。

「障害者を雇用する上での基本は愛情だと思います。基礎を築いたのは、最初雇用するのに猛反対した統括店長です。彼は一緒に鉄板を洗い、具体的に仕事を教えました。知的障害の人たちを教育し

茨城県：県北ブロック障害者就職面接会（日立会場）　9月26日（木）13：00〜15：30　国民宿舎「鵜の岬」（多賀郡十王町）
　　県南ブロック障害者就職面接会（土浦会場）　9月27日（金）13：30〜15：30　土浦京成ホテル（土浦市）
栃木県：2002障害者雇用促進面接会　9月20日（金）13：00〜16：00　コンセーレ（宇都宮市）
群馬県：障害者雇用促進会　9月30日（月）13：30〜16：00　太田産業技術専門校（太田市）

なければと思うと、社員に緊張感が出てきます。彼らが悪くなるのは、社員が悪くなっているバロメーターだと思っています。いいところを根気よく見つけ出して、きっかけをつかんでいけば、仕事はクリアしていくと思います」

昆野さんは九一年に入社した。邉さんとは三十数年前、経理専門学校の事務と学生という関係での出会いだった。

「私は途中から入社しましたが、障害者に対するやさしさがある会社だと感じました。それは社長の当初からの理念がきちんと伝わっているからだと思います。最初はどうかかわっていったらいいかわかりませんでしたが、九五年に生活相談員の講習を受けてから、こうすればいいのかと思えるようになりました」

知的障害者の「特性」は一人ひとりさまざま。人数がふえてくると、中には社会や会社のルールからはみ出す人もいて、対応が追いつかなくなった。そんなとき、障害者職業生活相談員の資格認定講習に誘われた。

「基礎的な勉強をしてよかったと思います。それまでも、いつも声かけはしていたのですが、勉強すると声かけの中身が違ってきます。『おはよう』だけでなく、次の言葉が出てきます。また、複数の生活相談員がいると、悩んでいることをお互いに相談できます。一緒に考える人がいることが、問題解決にいい効果を出してきました。それは、障害者を雇用している事業所としては財産だと思います」

知的障害者は毎日、作業日誌を書く。ローテーション勤務のため、一ヵ月単位で決めた休日をコピーして一人ひとりに渡し、一枚は壁に貼っておく。

「みんな、日曜日は忙しいから休めないと思っています。できないだろうからやらせないではなく、『自分たちのことは自分たちで管理できるようにしましょう』ということにしたら、健常者と違わないところまで引き寄せることができると思うんです。

鉄板洗いや食器洗いを担当する工藤操さん（左）と葛巻信之さん（右）

作業日誌は、店長や私がチェックして、そのまま緑生園にファクスしています。理解できる人とできない人、理解できても表現できる人とできない人、いろいろな特性が融合されていますよ」

生活のベースは自宅やグループホーム、社会参加はぴょんぴょん舎、生涯教育は緑生園という三者の連携がとれている。その日も、緑生園の園長が訪ねてきていた。

「緑生園の先生方、グループホームの世話人、障害者の親と、『よりよき共生を求めて』と題して、勉強会もしました。何か問題があれば、三者が連絡をとって解決していきますが、つながりが大事ですね。社会参加はきつい、生涯教育の中でもう一度やり直さないといけないという人は、退職ではなく、緑生園で再教育という形をとり、いま二人が戻っています」

九八年には障害者職場定着推進チームもつくり、生活相談員は延べ一二名になった。

「職場定着推進チームの四名が核になっています。昆野と製造部長、統括店長と障害者代表の工藤です。頻繁に会議をしなくても、四人に情報が集約されてきま

埼玉県：坂戸・鶴ヶ島障害者一日雇用相談室　9月25日（水）13：00〜16：00　坂戸文化会館（坂戸市）
障害者県南地域就職面接会　9月27日（金）13：00〜16：00　大宮ソニックシティ（さいたま市）
千葉県：障害者雇用促進合同面接会　9月27日（金）13：00〜16：00　千葉ポートアリーナ（千葉市）
東京都：障害者就職面接会（城南ブロック）　9月18日（水）13：00〜16：00　大田区産業プラザ（大田区）

すが、生活相談員がふえてくると、会話の中で問題解決ができるようになって、だんだん問題が少なくなってきました」

従業員は社員とパートを合わせて二〇〇名余。現在、一〇名の知的障害者が働いているが、うち九名が緑生園の出身者だ。

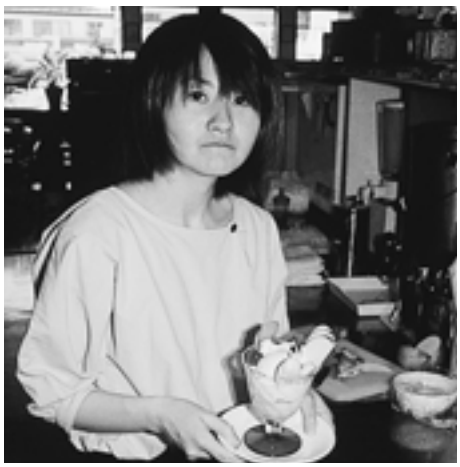
こんなに仕事ができるようになるなんて

村沢定美さんは、本店で接客をしている。邉さんは彼女と会ったとき、「必ずできる」というひらめきがあった。

「鍛えれば必ずできると直感したんです。一年間は、まずお茶を出すことから指導しました。最初は人前に出るのを嫌がって店の隅に隠れていたんですが、二年目から見違えるように変わりました。同時にいくつもの仕事は覚えられませんから、ホールで接客の仕事ができるようになってから、次の仕事ができるようにと励ましました」

村沢さんは岩手障害者職業センターを通じて採用された。一年が過ぎ、接客をこなす村沢さんを見て、「こんなに変わったの」とセンターの指導員がうれし涙を流したという。私たちに食後のコーヒーを運んでくれたが、障害には気づかなかった。

「お客さんとの応対は？」



接客のほかドリンク、デザートづくりと忙しく働く村沢定美さん

「自信ない……」

そうは見えない。ちょっと恥ずかしそうな笑顔がすてき。接客のほかに、ドリンク類や牛たんの塩のレモンだれをつくるなどの「パントリー」関係もこなす。ドリンク、デザートメニューだけでも約二〇種類。フルーツパフェは、アイスクリームを入れ、生クリームを絞り、何種類もの果物を切り、飾って……、おいしそうにできあがった。

工藤操さんは、二〇〇〇年に優秀勤労者として県知事表彰を受けた。昆野さんは、そのときの彼の喜びようを覚えている。

「賞状をもらったとき、たいへん喜んでいました。社会人として仕事をして、それだけ苦労があったから、あの喜びがあったのだと思います。知的障害者の人たちが辞めたら、私たちが仕事に戸惑いますね。それぞれの役割を果たしているんですよ」

厨房や洗い場で、みんな黙々と働いている。

「健常者と障害者の社員のバランスはあると思いますが、これからも積極的に雇用していきたいと思います。自分は必要とされ、期待されているという自信を与えることが大事です。仕事の中身と質を高めていくようにチャレンジさせると、喜びを感じ、競い合うようになります。それは、企業にも本人にもいいことだと思いますね」

もちろん、邉社長も同じ思いだ。

「これからも社員やスタッフの協力を得ながら、充実させていきたいと思います。職場の中に、高齢者も障害者もいる。職場は小さな社会、社会の縮図ととらえるべきと思っています」

東京都：障害者就職面接会（城東ブロック）　9月20日（金）13：00〜16：00　すみだリバーサイドホール（墨田区）
障害者就職面接会（多摩ブロック）　9月24日（火）13：00〜16：00　東京都多摩障害者スポーツセンター（国立市）
障害者就職面接会（中央ブロック）　9月25日（水）13：00〜16：00　新宿コズミックスポーツセンター（新宿区）
神奈川県：横須賀障害者就職面接会（横須賀地区）　9月18日（水）13：30〜15：30　横須賀市立総合福祉会館（横須賀市）

地域に愛される存在に

昨年九月、いわゆる狂牛病問題が起こるまでは、商売は極めて順調にきた。

「良心とともに食べ物を提供して、正直にやってきましたが、九月以降はいままでにない経験をしました。来店客数は昨年と同じぐらいまで戻ってきましたが、夜の客数が減っているのはデフレの影響でしょうね」

厨房で盛岡冷麺をつくる岩渕鉄也さんとでき上がった冷麺

三年前、盛岡駅前に一階から三階が焼肉レストランの「ぴょんぴょん舎」、四階が無国籍料理の「ジャーラン・ジャーラン」をオープンした。いくつもの広告賞をとっている「盛岡冷麺」のコピーは、イーハトーヴの味伝説。そのテーマは、「宮沢賢治の世界」と「大陸の風」。

「韓国の食文化を盛岡の生活文化と融合しながら表現していこうと考えていましたが、日本、韓国、中国の食文化はつながっている、もう少し遠くを見たほうがいいと思い始めて、『小さな地球』をコンセプトにしました」

水も、素材のうまみを引き出す「創生水」を使い、環境にも配慮する。名前を使うからにはと、盛岡冷麺のルーツも調べた。

「韓国から東京、そして盛岡に来た人が、盛岡の水と土壌でつくったので、ここ特有の盛岡冷麺ができたのだと思います。いま店舗は三店にふえましたが、質を維持していくのはたいへんです。大きくすることはあまり考えていませんが、自分の店を持ちたいという社員もいますから、組織力がつくのと並行して、店も大きくなっていく可能性はあると思います。盛岡冷麺を全国に広めていきたいですね。おいしければ定着します」

盛岡駅前にオープンしたぴょんぴょん舎駅前店（盛岡市盛岡駅前通９－３　ジャーランビル）

盛岡冷麺は、有名デパートで販売し、クール便で全国に宅配している。酢を少し入れるのがおいしく食べるコツで、家庭でもレストランと同様の味が楽しめる。

「人間性の回復を提供することが、会社の理念の第一です。食の空間を提供して、精神的な満足感を味わっていただくことが、我々の仕事の本質だと思います。きざな言い方かもしれませんが、盛岡の灯（あか）りになりたいですね。街の中にうちの店があると、とてもいい感じだと言われる店づくりをしたい。地域に根ざした、いい仕事をしていきたいですね」

――過去から現在、未来へと時空を超えた食のロマンに、ぴょんぴょん舎は夢を託します――とうたう。盛岡冷麺から、アジア、世界へと思いをはせた。

地球上には、障害のある人もない人も、さまざまな民族が生きている。「小さな地球」だというお店には、障害のある人たちもごく自然に働いていた。

神奈川県：よこはま障害者合同面接会（横浜地区）　９月20日（金）13：00～16：00　横浜文化体育館（横浜市）
県央・町田地区障害者合同面接会　９月27日（金）13：00～16：00　相模原市立総合体育館（相模原市）
川崎障害者合同面接会（川崎地区）　９月27日（金）13：00～16：00　川崎市体育館（川崎市）
新潟県：障害者集団選考会　９月18日（水）　ハローワーク柏崎